

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870104100
法人名	有限会社 ジー・エル・ファミリー
事業所名	グループホーム ファミール立花
所在地	愛媛県松山市立花1丁目1番23号
自己評価作成日	平成28年11月14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成28年11月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ファミリー立花に見学に来られ待っていただいている方にお話を伺いました。家族的な雰囲気、お食事おやつの手作り感、外出などの取り組み、何より小さいながらも、畑があり、皆さんで携われることが魅力だそうです。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は住宅地の中にある2階建ての建物で、開設より14年を迎える。当初からの理念を大切に継承し、昨年度は地域交流の支援に重点的に取り組んで成果を挙げている。文化祭では公民館や隣接する事業所にちらしを配布し、バザーや作品展示を行って好評を得ている。餅つき大会でついた餅を近所に配るなど日頃から近所付き合いを大切にしており、保育園児やボランティアの交流が頻回にある。職員の支援により、華道や茶道の師範免許を持つ利用者が玄関に生花を生けたり、茶を点ててふるまうことを生き甲斐に感じている。食事は、調理専任の職員が利用者の希望を取り入れた献立を考え、毎日買い物に出かけてユニットで調理しており、家庭的な雰囲気を大切にしている。また、経営母体が医療機関である利点を生かし、管理者である看護師と連携しながら24時間医療体制を整備しており、看取りにも積極的に取り組んでいる。職員は医療知識や吸引技術を習得しようと研鑽を積んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム ファミール立花

(ユニット名) A

記入者(管理者)
氏名 黒木万里子

評価完了日 平成 28年 11月14日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 何度か話し合い、開設よりの理念は、揺るがないもので、もう少し分かり易く、スローガンを検討し、日誌やロビーに明記し、意識しやすいようにしています。</p> <p>(外部評価) 「安心して生活できる環境の提供、個人の尊重と自立支援、地域交流の支援」を理念として掲げ、重要事項に記載すると共に、リビングや事務所に掲示して周知している。職員は理念を具体化するスローガンを作り、毎年見直ししながら実践に努めている。管理者は利用者ができるだけ自立してその人らしく暮らせるよう、24時間チェックリストを作成して利用者の生活リズムを大切に支援している。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 近所への外出、挨拶・会話、餅つきの際はご近所に貰ったり、文化祭の時、焼き芋、野菜や手作り品の即売等地域交流の場を多くしています。また近くの他事業所さんの運営推進会議や、地区の防災訓練へ参加したり交流を増やすよう心掛けている。</p> <p>(外部評価) 事業所では理念にもある地域との交流を大切に考えており、散歩時に挨拶を交わしたり、餅つき大会での餅を配ったりしてご近所つきあいに努めている。文化祭では野外店舗を開設してバザーを行い、屋内に作品を展示して多くの人に来てもらい好評を得ている。保育園児の訪問があり、ハンドベル演奏を披露してくれたり、地元寺社の僧侶が説法に来てくれている。また、舞踊や三味線ボランティアが定期的に訪れ、利用者の楽しみになっている。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 地域の方がホームに相談に来れたり、地域の居宅からの紹介も多く、地域包括からの依頼で、小学校などへの読み聞かせも続けて参加させて頂いております。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 他事業所、ケアマネージャーの方にも声かけし、運営推進会議に出席してもらい意見交流を図るよう心掛けている。その意見を参考に自分たちのグループホームを客観的にみる機会になっていて一定のサービスレベル維持になっている。今後もこれをサービス向上に活かしたいと考えている。	
			(外部評価) 運営推進会議は、利用者や家族、民生委員、他事業所職員、市職員等の参加を得て、2か月に1回開催している。会議では、利用者状況や活動報告のほか、参加者の要望を聞いてテーマを決め、学習や避難訓練を実施して意見や助言を得ている。管理者は毎月送る手紙に会議開催予定や議事内容を記載して伝え、家族の参加が得られるよう工夫している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 必要に応じ連絡や相談を行っている。	
			(外部評価) 地域包括支援センター職員や市担当課職員は運営推進会議に参加して事業所の状況を把握し、助言等を行っている。事業所は地域包括支援センターと連携して活動しており、センターの要請に応じて小学校の認知症理解を広める読み聞かせに参加している。また、対応困難な事例の相談や紹介を受けたり、保育園を紹介してもらい交流が続いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) スタッフ全員が、身体拘束をしないケアを行う為、カンファレンス等で話し合いもしており現在は、拘束0になっています。	
			(外部評価) 現在拘束をしないケアマニュアルについて検討しながら、年1回法人内研修のテーマとして取り上げ、拘束をしないケアに取り組んでいる。日中玄関は施錠しておらず、ユニット入り口にセンサーを設置して職員が見守りをしている。退院直後転倒の危険がある利用者は、ベッド柵や鈴をつけて見守り、事故防止に活用している。異食行動があり、夜間活発に動く利用者はやむを得ずミトンを使用することがり、その際は家族に説明して了承を得た上で必要最小限の使用にとどめている。言葉の拘束については接遇研修でも取り上げる計画があり、気がついた時はその都度注意して改善するようにしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 虐待について勉強会にも出席するよう心掛け、カンファレンスの時に、毎回言葉遣いについて注意や話し合いをし、問題があった場合は随時話し合い、カンファレンスを開く等して虐待防止に努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 各ユニットに成年後見制度を利用している入居者が1人づついる。現在も1名必要と思われる状況になり、関係者と話し合い、これらの制度や支援事業の活用を考えている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 同様にしている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 普段の生活の中で、利用者が自分の意思表示できるよう職員との関係作りを意識している。また、家族が面会に来られた時にも同様に気が付いたことを言いやすいような雰囲気作りや、声掛けを行い、その中で出た意見などで、出来ることは運営に反映するように努力している。	
			(外部評価) 玄関横には行事予定を知らせる看板が設置されていて、訪問者の目を引く。管理者は利用者支援には家族の協力は欠かせないと考えており、毎月写真を添えた手紙を送り、家族が知らない利用者の生活状況や表情を伝えるよう努めている。年3回花見や花火大会、もちつき大会の行事に合わせて家族会を開催し、懇談をしながら意思疎通を図り信頼関係を築くよう努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 毎月、介護主任、副主任、管理者、運営者が集まり会議を開くようにし、職員の意見や提案を聞く機会を設けており、反映できるようにしている。また、介護労働安定センターより講師を招き、研修なども行い、普段の何気ない会話の中にも問題意識を持つようにしている。 (外部評価) 管理者は職員が問題意識を持ち、主体的に業務に取り組めるよう指導しており、話し合いを重視しながら職員との信頼関係を築いている。職員は困ったことはその都度相談し、管理者やユニットリーダーと意思疎通を図りながらケアに反映させている。また、毎月開催されるカンファレンスで意見や提案を出すことができている。職員の要望は内容によって管理者会議に提案し、3モーター電動ベッドの購入等実現している。研修助成制度や職能手当支給制度があり、職員は意欲的に研修に励んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) H25年度より、休憩も取りやすいよう部屋の工夫、また個人々に目標・自己評価等を行って頂き、管理者・主任と面談の上、H26年度より、勤務評価により少額ながら時給upを実施。今後も可能な範囲で職場環境や条件整備に努め、やりがいのある職場を目指している。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 会社の運営上必要と認めたものは外部の研修についても勤務時間外で研修を受けてもらい、研修費用も会社が全額負担するようにしている。その他の研修についても、状況に応じ研修費用を(一部～全部)負担したり、勤務外で研修を受けられる機会を作っている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) H26年度より、他施設研修を行い、勉強会や交流は包括支援センターの連絡会や地域密着型サービス協会の研修等で機会があり、時間が許せば参加するようにしている。また、他事業所の運営推進会議や消防訓練への参加を行い交流の機会を確保している。	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 同様にしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等 が困っていること、不安なこと、要望等に 耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 同様にしている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と 家族等が「その時」まず必要としている支 援を見極め、他のサービス利用も含めた対 応に努めている	(自己評価) 同様にしている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場にお かず、暮らしを共にする者同士の関係を築 いている	(自己評価) 同様にしている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場にお かず、本人と家族の絆を大切にしながら、 共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 家族会や行事の予定を毎月報告しており、参加いただけるとき はご参加し様子を見て頂いたり、面会に来られた時、現状態を お話ししたり、常に意識を持ち接するようにしている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人 や場所との関係が途切れないよう、支援に 努めている	(自己評価) 家族や、以前交流があった人たちにも働きかけ、馴染みの人や 場所との関係が少しでも維持できるように働きかけている。 (外部評価) 地元出身の利用者が多く、家族や知人、友人の面会も多い。近 所を散歩したり、スーパーに買い物に出かけると知人に出会う ことも多く、挨拶を交わしたり立ち話しをする機会がある。地 元寺社の僧侶が時々訪れ、説法をしてくれるのも利用者の楽し みになっている。家族の協力を得て、馴染みの美容室へ行ったり 、墓参りに行く利用者もいる。職員は利用者の希望に応じて 自宅近くをドライブすることもある。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 入居者が他の入居者をいたわる場面も多くみられるが、反面、中には他者と上手く関係を作れない利用者もいる。会話の仲介や席を検討するなどトラブルにならない様、誰かが孤立してしまわない様心配している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 同様に心がけ、以前入居していた亡くなられた利用者家族様も外出先で会ったら声かけて下さったり、時々ホームに立ち寄ってくれ、現状報告等されたい自分の今後について相談を受ける事もある。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 日々の生活の中や、家族の面会時に利用者や家族の思いや希望が出ることも多く、そういった思いや希望に対しどうすればその一部でも実現できないかと、まずは受け入れるようにし、始めからそれは無理というような考え方はしないようにしている。 (外部評価) 職員は利用者一人ひとりの思いや意向を把握するためコミュニケーションの重要性を認識しており、傾聴を心がけている。入浴時等1対1でゆったりと過ごせる機会を利用して、利用者の話しをよく聴くよう努めている。思いを表すことが困難な利用者には表情や行動で推測し、要望に応えられるよう努めている。南予出身の利用者が一度故郷に帰りたいという希望を持っており、実現したいと考えている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入居前の本人や家族、関係者からの情報に加え、入居後も本人や家族等の会話から情報を得るようにして、追加で得られた情報は、フェイスシートに追加記入するようにし、これまでの暮らし、その人らしい生活のあり方について共有できるようにしている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 同様にしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 月1回～2回のカンファレンス時に普段の様子や面会時の家族等からの情報を参考に職員で話し合い介護計画を作成している。	
			(外部評価) より良い介護計画にするためセンター方式を活用し、記録用紙の見直しを行って家族が見てわかりやすく、信頼してもらえる内容になるよう考えて作成している。毎月1～2回行われるカンファレンスでは職員が話し合ってモニタリングを実施し、通常は3か月に1回、状態の変化がある場合はその都度、介護計画の見直しを行っている。介護計画は家族に説明して承認を得ており、遠方に住む家族の場合は、帰省時に合わせて関係者が集まって話し合っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 同様にしている	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 同様にしている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 職員付き添いで近所の美容室やスーパーを利用する機会や、地域行事に参加するなどしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 同様にしている。 (外部評価) 利用者や家族が希望するかかりつけ医を継続して受診すること ができるが、往診してもらえらる協力医に変更する利用者が多 い。必要に応じて、歯科や皮膚科、泌尿器科、心療内科の往診 も受けることができる。病院受診の際は家族が付き添っている が、困難な場合は職員が同行する場合もある。事業所には管理 者を含め2名の看護師がおり、法人の訪問看護ステーションと 協力医で24時間医療体制が整備されており、安心して適正な 医療にかかることができている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 同様にしている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 同様にしている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 入居時の説明でも看取りについての話をしているが、必要と考 えられる場合には、その都度家族や関係者(主治医・看護・介護 者)と話し合い今後の方針など記録しスタッフの意思統一を図 り、教育を行っている。 (外部評価) 看取りに関する指針を作成し、入居時に終末期ケアについて利 用者と家族に説明して意向の確認を行っている。重度化した場 合、協力医や訪問看護ステーション看護師との連携のもと24 時間体制で看取りを行い、緊急時には看護師である管理者が駆 けつけるので、職員は安心して終末期ケアに取り組むことが できている。家族が宿泊して付き添うこともある。今後も介護と 医療の連携のもと、本人や家族の希望に応じて看取りを行っ ていく方針で、毎年法人内部で研修を行い研鑽に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 緊急時の対応についての簡単な対応マニュアルを作っていて見やすい所に貼っている。救命方法のビデオを置いてあり職員が借りて帰れる。緊急時連絡網も各職員に渡しており、絡をとれるようにしている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 消防訓練年2回行い、その際、災害についても消防署員に話して頂いたり、地域協力体制については、互いの運営会議でお願いしたり、包括にも依頼している。 (外部評価) 年2回運営推進会議と合わせて日中と夜間を想定した避難訓練を行い、参加者から意見や助言を得て改善に努めている。訓練には夜勤者を除く全職員が参加しており、地震や水害時の避難方法についても消防署と話し合っ決めていく。家具をつっぱり棒で固定したり、日頃より避難に支障がないよう整理整頓を心がけ、水や食料の備蓄品を用意して定期的に交換している。	管理者は災害時に利用者の命を守るため、より多くの地域住民の協力を得ようと努力しており、様々な取組みを通していざという時に頼り頼られる関係ができることを期待したい。また、被災後に事業所の運営が円滑に再開できるよう事業継続計画についても検討することを期待する。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 接遇・言葉遣い（特に指示・命令口調・友達言葉等）は、その都度注意している。 (外部評価) 職員は利用者を自分や家族に置き換えて考えるようにし、認知症だからと決めつけないで誇りやプライバシーを損なわないよう努めている。特に言葉遣いへの配慮を怠らないよう注意し、管理者は、「『駄目よ!』と言っては駄目よ。」と具体的に指導している。また、利用者ができることは自分でしてもらうよう支援しており、「ありがとう」と謝意を返すようにしている。呼称については、入居時に利用者や家族に聞いて反応の良い呼び方を選んでいる。入浴や排泄時の同性介助については、利用者の希望に配慮して応じている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 同様にしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 職員の体制上できない事もあるが、ある程度の生活リズムを保ちながら、できる範囲で個人のペースや希望に添うように努めている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 同様にしている。買い物・散歩等外出時はもちろん特に、遠足や行事の時。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 食事の準備や片付けに参加できる利用者や参加できる内容は限られてしまうが、働きかけは行っている。利用者さんと一緒に餃子や、カレー等手伝って頂く機会もある。 (外部評価) 料理専任の職員が献立を立てて毎日買い物し、家庭の味を大切にユニットで調理している。職員はゆったりと介助しながら共に食卓を囲んでいる。食事の手が止まった利用者に、隣に座る利用者が声かけをして促している光景が印象的である。利用者の状態に適した食事形態を工夫して、十分な栄養が摂れるよう支援している。また、誕生日には希望する料理と手作りのケーキでお祝いし、正月や花見、月見、芋炊き等には季節毎の特別な行事食を楽しんでいる。今後はさらに回転寿司やそばを食べに出かけたり、喫茶店にも行きたいと考えている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 利用者の栄養状態や、体重を考えて必要な人には食事量の制限や栄養補助食品の利用などを行い。摂取量についても、必要に応じ個別により細かいチェックをするようにして対応している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 本人が拒否する場合もあるが、利用者全員に口腔ケアを働きかけている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) チェックシート（排泄時間量・水分食事量等全部が把握できる）チェックを用い排泄パターンを把握し、できるだけトイレでの排泄で、本人が気持ち良過ごせるよう工夫している。	
			(外部評価) 職員は24時間シートを活用して一人ひとりの排泄パターンを把握して誘導し、日中と夜間共にトイレで排泄ができるよう支援している。排泄用品を選択する際は、環境委員が中心になってカンファレンスで話し合い、家族とも相談して経済的な配慮もして決めている。さらに、利用者にあった最適な排泄用品を選択できるよう、講習会を開いて学習をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 同様にしている。チェックシート把握し、できるだけ食事や、飲み物の工夫、水分量の確保を行い、必要に応じ便秘薬使用する。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 大体、午後の入浴とし、本人の希望どうりにはできていないが、時間内であれば、曜日、同性介助など希望を聞いて行っている。足湯などは随時行っている。	
			(外部評価) 一般家庭浴槽に、週2回を基本に入浴しており、排便の失敗がある際はその都度シャワーで清潔を保つよう支援している。職員は、重度の利用者にも湯船にゆったり浸かってほしいと考え、福祉用具を活用して二人体制で入浴介助を行っている。入浴が苦手な利用者には声かけを工夫したり、日を変えて無理強いすることなく入浴できるよう支援している。入浴中はゆっくり話しをしたり、歌を歌って楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 同様にしている。寝具等天気のいい日には布団干し、または乾燥機を使用し順番に行い、清潔に保ち、整頓している。またフロアにはソファを置き寛げるようにしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 薬の目的や副作用、用法や用量等は薬局から出される説明文を個人のカルテに入れていて、必要に応じ確認できるようにしている。また、症状の変化にも気をつけ主治医との連携を取っている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 日々の過ごし方は、職員と共に、みんなが一緒に体操やちょっとしたゲーム、散歩、DVD鑑賞をしたり、個々でぬり絵、パズル、読書、等をして過ごして頂く。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 散歩などは職員とともにいき、買い物希望など少し時間のかかるものは、日を変えてもらうこともある。家族の協力がある場合はその都度をお願いし行うようにしている。 (外部評価) 近所にスーパーや公園があり、車の通りが少ない裏道を通って買い物や散歩に出かけている。天気の良い日は手入れの行き届いた菜園がある中庭に出て、日光浴をすることができる。また、福祉車両を使用して桜やバラ、サツキ、菊等季節の花々の見物や動物園、いちご狩り等に遠出して、なるべく外出の機会を増やすよう支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 実際にお金を所有している利用者は少ないが、希望がある場合は家族と相談の上、小額を本人に管理してもらっている。また外出時出来るだけ本人がお金を支払うように心掛けている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 同様にしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 各所に観葉植物や絵を飾り、メダカを飼育し、エサやりをして頂いたり、裏庭の野菜作り、玄関の植物に水やりをして頂く。台所・食堂（リビング）がオープンスペースになっていて、食事を作っているところが見えたり、においも感じられるようになっている。</p> <p>(外部評価) ユニット入り口を入るとオープンキッチンのあるリビングがあり、椅子席とソファ席が設けられている。利用者は調理の音や匂いを感じながら、思い思いの場所でくつろぐことができる。壁には文化祭のために作成した落ち葉等を使った素敵な作品が各所に飾られ楽しませてくれる。また、動物園へ行った写真や菜園の収穫風景等の写真が飾られており、利用者は写真を見ながら楽しく思い出すことができる。1階リビングから椅子のある中庭に出ることができ、日光浴や菜園の手入れを楽しむことができる。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価) ソファを置いたり、裏庭が見えるところに椅子を置いて自由に利用していいようにしている。裏庭にもベンツを置き外気に触れられるようにしている。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 居室に置けるものであれば、馴染みの物を持ち込んでかまわないようにしているので、自宅にあった仏壇を持ち込んでいる利用者もいる。</p> <p>(外部評価) 居室はエアコンとベッド、ワードローブ、チェストが備えつけられており、ベッドは利用者の状態に合わせたものを、移動動作に合わせて配置している。利用者は自宅から愛用の和タンスや机、椅子などを持ち込み、居心地よく過ごせるよう配置している。また、観音様や曼荼羅図、自作の書と賞状、家族写真等を飾って個性的な部屋になっている。各部屋の入り口には門札と写真が貼られていて、利用者が分かりやすいよう工夫されている。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価) トイレの広さや廊下の幅は車イスも利用できる広さを確保していて、各所の入り口の段差も少なくし、トイレ・浴室・廊下に手すりを取り付けている。また、居室入り口等に名札を付けたり、カレンダーや時計を目に付きやすいところに設置し、確認しやすいようにしている。</p>	

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870104100
法人名	有限会社 ジー・エル・ファミリー
事業所名	グループホーム ファミール立花
所在地	愛媛県松山市立花1丁目1番23号
自己評価作成日	平成28年10月31日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成28年11月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ファミリー立花に見学に来られ待っていただいている方にお話を伺いました。家族的な雰囲気、お食事おやつの手作り感、外出などの取り組み、何より小さいながらも、畑があり、皆さんで携われることが魅力だと思います。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は住宅地の中にある2階建ての建物で、開設より14年を迎える。当初からの理念を大切に継承し、昨年度は地域交流の支援に重点的に取り組んで成果を挙げている。文化祭では公民館や隣接する事業所にちらしを配布し、バザーや作品展示を行って好評を得ている。餅つき大会でついた餅を近所に配るなど日頃から近所付き合いを大切にしており、保育園児やボランティアの交流が頻回にある。職員の支援により、華道や茶道の師範免許を持つ利用者が玄関に生花を生けたり、茶を点ててふるまうこと生き甲斐に感じている。食事は、調理専任の職員が利用者の希望を取り入れた献立を考え、毎日買い物に出かけてユニットで調理しており、家庭的な雰囲気を大切にしている。また、経営母体が医療機関である利点を生かし、管理者である看護師と連携しながら24時間医療体制を整備しており、看取りにも積極的に取り組んでいる。職員は医療知識や吸引技術を習得しようと研鑽を積んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I.理念に基づく運営

II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

III.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

IV.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム ファミール立花

(ユニット名)

B

記入者(管理者)

氏名

黒木万里子

評価完了日

平成 28年 11月 14日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I. 理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 何度か話し合い、開設よりの理念は、揺るがないもので、もう少し分かり易く、スローガンを検討し、日誌やロビーに明記し、意識しやすいようにしています。</p> <p>(外部評価) 「安心して生活できる環境の提供、個人の尊重と自立支援、地域交流の支援」を理念として掲げ、重要事項に記載すると共に、リビングや事務所に掲示して周知している。職員は理念を具体化するスローガンを作り、毎年見直ししながら実践に努めている。管理者は利用者ができるだけ自立してその人らしく暮らせるよう、24時間チェックリストを作成して利用者の生活リズムを大切に支援している。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 近所への外出、挨拶・会話、餅つきの際はご近所に貰ったり、文化祭の時、焼き芋、野菜や手作り品の即売等地域交流の場を多くしています。また近くの他事業所さんの運営推進会議や、地区の防災訓練へ参加したり交流を増やすよう心掛けている。</p> <p>(外部評価) 事業所では理念にもある地域との交流を大切に考えており、散歩時に挨拶を交わしたり、餅つき大会での餅を配ったりしてご近所つきあいに努めている。文化祭では野外店舗を開設してバザーを行い、屋内に作品を展示して多くの人に来てもらい好評を得ている。保育園児の訪問があり、ハンドベル演奏を披露してくれたり、地元寺社の僧侶が説法に来てくれている。また、舞踊や三味線ボランティアが定期的に訪れ、利用者の楽しみになっている。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 地域の方がホームに相談に来れたり、地域の居宅からの紹介も多く、地域包括からの依頼で、小学校などへの読み聞かせも続けて参加させて頂いております。</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価) 他事業所、ケアマネージャーの方にも声かけし、運営推進会議に出席してもらい意見交流を図るよう心掛けている。その意見を参考に自分たちのグループホームを客観的にみる機会になっていて一定のサビズ維持になっている。今後もこれをサービス向上に活かしたいと考えている。</p> <p>(外部評価) 運営推進会議は、利用者や家族、民生委員、他事業所職員、市職員等の参加を得て、2か月に1回開催している。会議では、利用者状況や活動報告のほか、参加者の要望を聞いてテーマを決め、学習や避難訓練を実施して意見や助言を得ている。管理者は毎月送る手紙に会議開催予定や議事内容を記載して伝え、家族の参加が得られるよう工夫している。</p>	
5	4	<p>○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 必要に応じ連絡や相談を行っている。</p> <p>(外部評価) 地域包括支援センター職員や市担当課職員は運営推進会議に参加して事業所の状況を把握し、助言等を行っている。事業所は地域包括支援センターと連携して活動しており、センターの要請に応じて小学校の認知症理解を広める読み聞かせに参加している。また、対応困難な事例の相談や紹介を受けたり、保育園を紹介してもらい交流が続いている。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) スタッフ全員が、身体拘束をしないケアを行う為、カンファレンス等で話し合いもしており現在は、拘束0になっています。</p> <p>(外部評価) 現在拘束をしないケアマニュアルについて検討しながら、年1回法人内研修のテーマとして取り上げ、拘束をしないケアに取り組んでいる。日中玄関は施錠しておらず、ユニット入り口にセンサーを設置して職員が見守りをしている。退院直後転倒の危険がある利用者は、ベッド柵や鈴をつけて見守り、事故防止に活用している。異食行動があり、夜間活発に動く利用者はやむを得ずミトンを使用することがあり、その際は家族に説明して了承を得た上で必要最小限の使用にとどめている。言葉の拘束については接遇研修でも取り上げる計画があり、気がついた時はその都度注意して改善するようにしている。</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 虐待について勉強会にも出席するよう心掛け、カンファレンスの時に、毎回言葉遣いについて注意や話し合いをし、問題があった場合は随時話し合い、カンファレンスを開く等して虐待防止に努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 各ユニットに成年後見制度を利用している入居者が1人づついる。現在も1名必要と思われる状況になり、関係者と話し合い、これらの制度や支援事業の活用を考えている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 同様にしている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 普段の生活の中で、利用者が自分の意思表示できるよう職員との関係作りを意識している。また、家族が面会に来られた時にも同様に気が付いたことを言いやすいような雰囲気作りや、声掛けを行い、その中で出た意見などで、出来ることは運営に反映するように努力している。	
			(外部評価) 玄関横には行事予定を知らせる看板が設置されていて、訪問者の目を引く。管理者は利用者支援には家族の協力は欠かせないと考えており、毎月写真を添えた手紙を送り、家族が知らない利用者の生活状況や表情を伝えるよう努めている。年3回花見や花火大会、もちつき大会の行事に合わせて家族会を開催し、懇談をしながら意思疎通を図り信頼関係を築くよう努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	<p>(自己評価) 毎月、介護主任、副主任、管理者、運営者が集まり会議を開くようにし、職員の意見や提案を聞く機会を設けており、反映できるようにしている。また、介護労働安定センターより講師を招き、研修なども行い、普段の何気ない会話の中にも問題意識を持つようにしている。</p> <p>(外部評価) 管理者は職員が問題意識を持ち、主体的に業務に取り組めるよう指導しており、話し合いを重視しながら職員との信頼関係を築いている。職員は困ったことはその都度相談し、管理者やユニットリーダーと意思疎通を図りながらケアに反映させている。また、毎月開催されるカンファレンスで意見や提案を出すことができている。職員の要望は内容によって管理者会議に提案し、3モーター電動ベッドの購入等実現している。研修助成制度や職能手当支給制度があり、職員は意欲的に研修に励んでいる。</p>	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	<p>(自己評価) H25年度より、休憩も取りやすいよう部屋の工夫、また個人々に目標・自己評価等を行って頂き、管理者・主任と面談の上、H26年度より、勤務評価により少額ながら時給upを実施。今後も可能な範囲で職場環境や条件整備に努め、やりがいのある職場を目指している。</p>	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<p>(自己評価) 会社の運営上必要と認めたものは外部の研修についても勤務時間扱いで研修を受けてもらい、研修費用も会社が全額負担するようになっている。その他の研修についても、状況に応じ研修費用を(一部～全部)負担したり、勤務扱いで研修を受けれる機会を作っている。</p>	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	<p>(自己評価) H26年度より、他施設研修を行い、勉強会や交流は包括支援センターの連絡会や地域密着型サービス協会の研修等で機会があり、時間が許せば参加するようにしている。また、他事業所の運営推進会議や消防訓練への参加を行い交流の機会を確保している。</p>	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	<p>(自己評価) 同様にしている。</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等 が困っていること、不安なこと、要望等に 耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 同様にしている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と 家族等が「その時」まず必要としている支 援を見極め、他のサービス利用も含めた対 応に努めている	(自己評価) 同様にしている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場にお かず、暮らしを共にする者同士の関係を築 いている	(自己評価) 同様にしている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場にお かず、本人と家族の絆を大切にしながら、 共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 家族会や行事の予定を毎月報告しており、参加いただけるときは ご参加し様子を見て頂いたり、面会に来られた時、現状態をお話 したり、常に意識を持ち接するようにしている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人 や場所との関係が途切れないよう、支援に 努めている	(自己評価) 家族や、以前交流があった人たちにも働きかけ、馴染みの人や場 所との関係が少しでも維持できるように働きかけている。 (外部評価) 地元出身の利用者が多く、家族や知人、友人の面会も多い。近所 を散歩したり、スーパーに買い物に出かけると知人に出会うこと も多く、挨拶を交わしたり立ち話しをする機会がある。地元寺社 の僧侶が時々訪れ、説法をしてくれるのも利用者の楽しみになっ ている。家族の協力を得て、馴染みの美容室へ行ったり、墓参り に行く利用者もいる。職員は利用者の希望に応じて自宅近くをド ライブすることもある。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 入居者が他の入居者をいたわる場面も多くみられるが、反面、中には他者と上手く関係を作れない利用者もいる。会話の仲介や席を検討するなどトラブルにならない様、誰かが孤立してしまわない様心配りしている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 同様に心がけ、以前入居していた亡くなられた利用者家族様も外出先で会ったら声かけて下さったり、時々ホームに立ち寄ってくれ、現状報告等されたい自分の今後について相談を受ける事もある。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 日々の生活の中や、家族の面会時に利用者や家族の思いや希望が出ることも多く、そういった思いや希望に対しどうすればその一部でも実現できないかと、まずは受け入れるようにし、始めからそれは無理というような考え方はしないようにしている。 (外部評価) 職員は利用者一人ひとりの思いや意向を把握するためコミュニケーションの重要性を認識しており、傾聴を心がけている。入浴時等1対1でゆったりと過ごせる機会を利用して、利用者の話しをよく聴くよう努めている。思いを表すことが困難な利用者には表情や行動で推測し、要望に応えられるよう努めている。南予出身の利用者が一度故郷に帰りたいたいという希望を持っており、実現したいと考えている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入居前の本人や家族、関係者からの情報に加え、入居後も本人や家族等の会話から情報を得るようにして、追加で得られた情報は、フェイスシートに追加記入するようにし、これまでの暮らし、その人らしい生活のあり方について共有できるようにしている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 同様にしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 月1回～2回のカンファレンス時に普段の様子や面会時の家族等からの情報を参考に職員で話し合い介護計画を作成している。	
			(外部評価) より良い介護計画にするためセンター方式を活用し、記録用紙の見直しを行って家族が見てわかりやすく、信頼してもらえる内容になるよう考えて作成している。毎月1～2回行われるカンファレンスでは職員が話し合っモニタリングを実施し、通常は3か月に1回、状態の変化がある場合はその都度、介護計画の見直しを行っている。介護計画は家族に説明して承認を得ており、遠方に住む家族の場合は、帰省時に合わせて関係者が集まって話し合っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 同様にしている	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 同様にしている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 職員付き添いで近所の美容室やスーパーを利用する機会や、地域行事に参加するなどしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	<p>(自己評価) 同様にしている。</p> <p>(外部評価) 利用者や家族が希望するかかりつけ医を継続して受診することが できるが、往診してもらえぬ協力医に変更する利用者が多い。必 要に応じて、歯科や皮膚科、泌尿器科、心療内科の往診も受ける ことができる。病院受診の際は家族が付き添っているが、困難な 場合は職員が同行する場合もある。事業所には管理者を含め2名 の看護師がおり、法人の訪問看護ステーションと協力医で24時 間医療体制が整備されており、安心して適正な医療にかかること ができています。</p>	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	<p>(自己評価) 同様にしている。</p>	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行ってい る	<p>(自己評価) 同様にしている。</p>	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	<p>(自己評価) 入居時の説明でも看取りについての話をしているが、必要と考 えられる場合には、その都度家族や関係者(主治医・看護・介護者) と話し合い今後の方針など記録しスタッフの意思統一を図り、教 育を行っている。</p> <p>(外部評価) 看取りに関する指針を作成し、入居時に終末期ケアについて利用 者と家族に説明して意向の確認を行っている。重度化した場合、 協力医や訪問看護ステーション看護師との連携のもと24時間体 制で看取りを行い、緊急時には看護師である管理者が駆けつける ので、職員は安心して終末期ケアに取り組むことができています。 家族が宿泊して付き添うこともある。今後も介護と医療の連携の もと、本人や家族の希望に応じて看取りを行っていく方針で、毎 年法人内部で研修を行い研鑽に努めている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 緊急時の対応についての簡単な対応マニュアルを作っていて見やすい所に貼っている。救命方法のビデオを置いてあり職員が借りて帰れる。緊急時連絡網も各職員に渡しており、絡をとれるようにしている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 消防訓練年2回行い、その際、災害についても消防署員に話して頂いたり、地域協力体制については、互いの運営会議でお願いしたり、包括にも依頼している。 (外部評価) 年2回運営推進会議と合わせて日中と夜間を想定した避難訓練を行い、参加者から意見や助言を得て改善に努めている。訓練には夜勤者を除く全職員が参加しており、地震や水害時の避難方法についても消防署と話し合っている。家具をつっぱり棒で固定したり、日頃より避難に支障がないよう整理整頓を心がけ、水や食料の備蓄品を用意して定期的に交換している。	管理者は災害時に利用者の命を守るため、より多くの地域住民の協力を得ようと努力しており、様々な取組みを通していざという時に頼り頼られる関係ができることを期待したい。また、被災後に事業所の運営が円滑に再開できるよう事業継続計画についても検討することを期待する。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 接遇・言葉遣い（特に指示・命令口調・友達言葉等）は、その都度注意している。 (外部評価) 職員は利用者を自分や家族に置き換えて考えるようにし、認知症だからと決めつけずに誇りやプライバシーを損なわないよう努めている。特に言葉遣いへの配慮を怠らないよう注意し、管理者は、「『駄目よ!』と言っては駄目よ。」と具体的に指導している。また、利用者ができることは自分でしてもらうよう支援しており、「ありがとう」と謝意を返すようにしている。呼称については、入居時に利用者や家族に聞いて反応の良い呼び方を選んでいる。入浴や排泄時の同性介助については、利用者の希望に配慮して応じている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 同様にしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 職員の体制上できない事もあるが、ある程度の生活リズムを保ちながら、できる範囲で個人のペースや希望に添うように努めている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 同様にしている。買い物・散歩等外出時はもちろん特に、遠足や行事の時。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 食事の準備や片付けに参加できる利用者や参加できる内容は限られてしまうが、働きかけは行っている。利用者さんと一緒に餃子や、カレー等手伝って頂く機会もある。 (外部評価) 料理専任の職員が献立を立てて毎日買い物し、家庭の味を大切にユニットで調理している。職員はゆったりと介助しながら共に食卓を囲んでいる。食事の手が止まった利用者に、隣に座る利用者が声かけをして促している光景が印象的である。利用者の状態に適した食事形態を工夫して、十分な栄養が摂れるよう支援している。また、誕生日には希望する料理と手作りのケーキでお祝いし、正月や花見、月見、芋炊き等には季節毎の特別な行事食を楽しんでいる。今後はさらに回転寿司やそばを食べに出かけたり、喫茶店にも行きたいと考えている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 利用者の栄養状態や、体重を考えて必要な人には食事量の制限や栄養補助食品の利用などを行い。摂取量についても、必要に応じ個別により細かいチェックをするようにして対応している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 本人が拒否する場合もあるが、利用者全員に口腔ケアを働きかけている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) チェックシート（排泄時間量・水分食事量等全部が把握できる） チェックを用い排泄パターンを把握し、できるだけトイレでの排泄で、本人が気持ち良過ごせるよう工夫している。	
			(外部評価) 職員は24時間シートを活用して一人ひとりの排泄パターンを把握して誘導し、日中と夜間共にトイレで排泄ができるよう支援している。排泄用品を選択する際は、環境委員が中心になってカンファレンスで話し合い、家族とも相談して経済的な配慮もして決めている。さらに、利用者に合った最適な排泄用品を選択できるよう、講習会を開いて学習をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 同様にしている。チェックシート把握し、できるだけ食事や、飲み物の工夫、水分量の確保を行い、必要に応じ便秘薬使用する。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 大体、午後の入浴とし、本人の希望どうりにはできていないが、時間内であれば、曜日、同性介助など希望を聞いて行っている。足湯などは随時行っている。	
			(外部評価) 一般家庭浴槽に、週2回を基本に入浴しており、排便の失敗がある際はその都度シャワーで清潔を保つよう支援している。職員は、重度の利用者にも湯船にゆったり浸かってほしいと考え、福祉用具を活用して二人体制で入浴介助を行っている。入浴が苦手な利用者には声かけを工夫したり、日を変えて無理強いすることなく入浴できるよう支援している。入浴中はゆっくり話しをしたり、歌を歌って楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 同様にしている。寝具等天気の良い日には布団干し、または乾燥機を使用し順番に行い、清潔に保ち、整頓している。またフロアにはソファを置き寛げるようにしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 薬の目的や副作用、用法や用量等は薬局から出される説明文を個人のカルテに入れていて、必要に応じ確認できるようにしている。また、症状の変化にも気をつけ主治医との連携を取っている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 日々の過ごし方は、職員と共に、みんなが一緒に体操やちょっとしたゲーム、散歩、DVD鑑賞をしたり、個々でぬり絵、パズル、読書、等をして過ごして頂く。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 散歩などは職員とともにいき、買い物希望など少し時間のかかるものは、日を変えてもらうこともある。家族の協力がある場合はその都度をお願いし行うようにしている。	
			(外部評価) 近所にスーパーや公園があり、車の通りが少ない裏道を通って買い物や散歩に出かけている。天気の良い日は手入れの行き届いた菜園がある中庭に出て、日光浴をすることができる。また、福祉車両を使用して桜やバラ、サツキ、菊等季節の花々の見物や動物園、いちご狩り等に遠出して、なるべく外出の機会を増やすよう支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 実際にお金を所有している利用者は少ないが、希望がある場合は家族と相談の上、小額を本人に管理してもらっている。また外出時出来るだけ本人がお金を支払うように心掛けている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 同様にしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 各所に観葉植物や絵を飾り、メダカを飼育し、エサやりをして頂いたり、裏庭の野菜作り、玄関の植物に水やりをして頂く。台所・食堂（リビング）がオープンスペースになっていて、食事を作っているところが見えたり、においも感じられるようになっている。</p> <p>(外部評価) ユニット入り口を入るとオープンキッチンのあるリビングがあり、椅子席とソファ席が設けられている。利用者は調理の音や匂いを感じながら、思い思いの場所でくつろぐことができる。壁には文化祭のために作成した落ち葉等を使った素敵な作品が各所に飾られ楽しませてくれる。また、動物園へ行った写真や菜園の収穫風景等の写真が飾られており、利用者は写真を見ながら楽しく思い出することができる。1階リビングから椅子のある中庭に出ることができ、日光浴や菜園の手入れを楽しむことができる。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価) ソファを置いたり、裏庭が見えるところに椅子を置いて自由に利用しているようにしている。裏庭にもベンツを置き外気に触れられるようにしている。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 居室に置けるものであれば、馴染みの物を持ち込んでかまわないようにしているので、自宅にあった仏壇を持ち込んでいる利用者もいる。</p> <p>(外部評価) 居室はエアコンとベッド、ワードローブ、チェストが備えつけられており、ベッドは利用者の状態に合わせたものを、移動動作に合わせて配置している。利用者は自宅から愛用の和タンスや机、椅子などを持ち込み、居心地よく過ごせるよう配置している。また、観音様や曼茶羅図、自作の書と賞状、家族写真等を飾って個性的な部屋になっている。各部屋の入り口には門札と写真が貼られていて、利用者が分かりやすいよう工夫されている。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価) トイレの広さや廊下の幅は車イスも利用できる広さを確保していて、各所の入り口の段差も少なくし、トイレ・浴室・廊下に手すりを取り付けている。また、居室入り口等に名札を付けたり、カレンダーや時計を目に付きやすいところに設置し、確認しやすいようにしている。</p>	